

水商売の理

安いものには訳がある、
あまりに安価なものを疑ってかかるときの戒めです。
同じように、高いものにも訳があるという認識が
長らく水と安全はタダと信じてきた日本人にも
浸透しつつあるようです。

タダで安心できる水など存在しない、
とはいうものの
どこを適正価格と考えたらいいかということとは
依然として、私たちの課題です。

商いに携わる側の立場で言えば、
命を支える水を商うという誇りが、
結局は健全な水市場につながるのではないのでしょうか。

こうした律儀な水商売の理が
すべての商いの当たり前になってほしいものです。

水の文化 23号 2006年7月

特集「水商売の理」

命の根幹を商う心意気
江戸の水売り 山本一力

安全な水を手に入れるために
水はただではないという文化 村上雅博

顧客に応える飲料用水とは
現代の水商い企業 サントリー

水売りのベンチャーズスピリット
地下水ビジネスで広がる分散型水工場 ウェルシイ

水の文化実習実践取材 横浜市 水源林ボランティア
県境を越えて共に育み流域の資源を守る

経営戦略を意識した水ビジネスへ
公営企業 水道局の総合力 横浜市水道局

節水の意味を問い直す
渇水地における水道ビジネスの難しさ 高松市水道局

みずだより 水売りの声 宮田章司

文化をつくる 水商売の理

水の文化書誌 水の商品化 古賀邦雄

第4回世界水フォーラム 子ども特派員報告

子どもが見た世界水フォーラム

里川掲示板

インフォメーション

50

49

46

44

42

40

34

28

22

18

14

8

4